番外編

リレーインタビュー

上森町長　こんにちは。

住太夫師匠　ようお越しくださいました。

上森町長　師匠には、浄るりシアター開館当初からお世話になっておりますが、来年でシアター25周年、人形浄瑠璃立ち上げから20年になります。

住太夫師匠　もうそない経つんでんな。ようここまでやってきはったなあ。

上森町長　本日は、師匠にあらためてお話をお聞きしたいと思い、企画させていただきました。早速ですが、師匠が浄瑠璃をお始めになったのは終戦後からとお聞きしたことがあるのですが。

住太夫師匠　小学校の2、3年生時分から親に連れられ文楽や歌舞伎、芝居にも連れて行ってもうて、最初から最後までずーっと観てました。生まれつきほんまに芸事が好きでんねん。

上森町長　そのようですね。

住太夫師匠　私が文楽へ入るいうたら親父（先代竹本住太夫）が「芸も修行も厳しい。お金は儲からん。学校へ行け」と言われて、勉強嫌いが学校へ行きました。戦争で兵隊に行くときの送別会で浄瑠璃を語るのを親父が聞き、「それほど好きやったら、帰ってきたら文楽へ行け」と。「絶対生きて帰ってこなあかん！」と思いましたなあ。

上森町長　そうして帰ってこられ文楽に入られたということですね。いろんな経験をされてきておりますが、その当時は今と違って大変でしたでしょうね。

住太夫師匠は 2014 年 5 月をもって現役引退。実に 68 年間の太夫人生です。93 歳をお迎えになられますが、浄瑠璃の熱意は今も盛んです。（文化勲章も見せていただきました。）

住太夫師匠　昭和初期は大変やったけど、今と違ってのんびり、いい時代でしたで。能勢にも妙見山やマツタケ狩りで行き、能勢の浄瑠璃も知ってましたでぇ。

上森町長　実は、私も能勢で浄瑠璃の太夫でして、三味線もやっております。父親、祖父もやっていました。浄瑠璃が生活の中にあって子供の頃から親しみをもっている人が多かった土地柄だと思います。

住太夫師匠　子供の時分からええもんを観たり、聴いたりすることが大事や。能勢でも子供たちが人形浄瑠璃をやっていることは偉いで。嫌がっても親が連れて行ってやったら、そのうちに好きになっていくさかい、稽古には連れて行ってやってほしいでんな。（笑）

上森町長　そうですね。200年の歴史ある能勢の浄瑠璃を今後も若い世代に受け継がないといけません。師匠、浄瑠璃をやるうえで大事なことはなんですか。

住太夫師匠　浄瑠璃は大阪弁で語ること。天が地になっても大阪弁でやらなあかん。それと弟子に言うのは上手にやれとは言わん。何より常識と人間性、そして素直にやれと言うこと。ヘタが上手ぶって語ったら聴いてられへん。素直に語ることがええ。

上森町長　私も30年前に浄瑠璃をはじめ、上手に語れていると思っていましたが、今思い返したら恥ずかしいことです。それにしてもこの部屋の中にも床本が沢山ありますが、師匠がお好きな演目は何ですか。

住太夫師匠　ぎょうさんあるけどなあ…。「伊賀越道中双六 - 沼津の段」「菅原伝授手習鑑 - 桜丸切腹の段、寺子屋の段」などが好きやけど、歌舞伎などのように十八番が文楽にはない。それだけ難しいということですわな。それに嫌いなもんほどやらなあかん。やっているうちに好きになっていくもんやで。

上森町長　能勢の太夫にアドバイスをいただけますか。

住太夫師匠　太夫は三味線の音についたらあかん。地声ではなく息をいっぱい吸って眉間から声を出すこと。それと、〝浄瑠璃は日常ことば〟で語らんとあかん。難しいことやけど〝浄瑠璃を語らんと浄瑠璃を語る〟素直にやってほしい。

上森町長　最後に何かお言葉を頂戴できますか。

住太夫師匠　演者はお客さんを楽しませて帰ってもらわなあかん。せやけど一番は辞めんと続けることや。何もこれは浄瑠璃のことだけやおまへんで。〝好きこそものの上手なれ、下手の横好き〟や。そして浄瑠璃のことだけではなく若い人にもっとええもん観て、聴いてほしいということでんなあ。町長さんも浄瑠璃続けておくなはれよ。

上森町長　わかりました。（笑）能勢は浄瑠璃をはじめ文化意識の高い土地柄です。私も町を預かっている者として、文化をもっと高めてまいります。師匠もどうぞお元気でこれからも能勢の浄瑠璃にお力添えくださいませ。本日はありがとうございました。

左から竹本住太夫師匠、上森町長